

第1回安曇野市水道事業運営審議会 会議概要

- 1 審議会名 平成23年度 第1回水道事業運営審議会
- 2 日 時 平成23年7月14日 午後3時から午後3時45分まで
- 3 会 場 安曇野市豊科総合支所コミュニティ消防センター
- 4 出席者 矢ヶ崎会長、務副会長、等々力委員、市川委員、藤原委員、磯野委員、  
松村委員、窪田委員、市川委員、加々美委員
- 5 市側出席者 関部長、中野課長、古幡課長、水谷係長、奥村係長
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成23年7月19日

協 議 事 項 等

(開会) 午後3時

- ・開会 (中野課長)
- ・あいさつ (関部長)
- ・あいさつ (矢ヶ崎会長)

議事① 平成22年度水道事業会計決算について  
(議事①資料に基づき事務局で説明)

会 長

何か質問等がありますか。

委 員

この決算額について、安曇野市の規模からして、妥当なのかどうなのかが知りたい。近隣の市町村と比較して、どうなのか。

事務局

平成22年度、単年度で考えると非常に良い経営状態。

非常にいいというのは、現金預金が30億円あること、また利益も2億円弱出ていること。ただ、将来的に水道管の整備、布設替を考えると、その資金が必要となった時に急に水道料金を値上げするわけにはいかない、長期5年から10年を一つの期間として資金計画を立てる。これから予定されるものは、三郷黒沢川の水源転換、それから少し先になるが明科の布設替、それと穂高の別荘地帯も考えられる。これらを踏まえて、料金体系もそれぞれ地域別々で、その料金を統一した時に、いくらだったら5年或いは10年で布設替ができるのか、検討しなければいけないが、今の経営状態は良い。

会 長

他に何か質問等がありますか。

委 員

年間の有収率で、78.4%という数値はどのくらいのレベルなのか。

事務局

他の市町村の有収率は、90%近くはある。配水管や送水管で漏水しているものが大半を占めているが、道路から水が噴き出していれば発見できるが、地下に浸み込んでいくと簡単に漏水箇所の発見はできないのが現状。有収水量率を上げるということは、布設替をしていかないと上がらない。78.4%という有収率はあまり良くないが、地域ごとでは、5地域の中で一番有収率が高いのは豊科地域で94.81%、次が三郷地域で80.39%、堀金地域が79.35%、穂高地域が72.07%、明科地域が56.67%。明科地域については、約半分が漏水しているので、早く布設替を実施する必要があるが、布設替を実施するには何十億円という単位で工事費が必要となり、10年とか20年の期間の中で、布設替計画を立てていくことになる。

いずれにしても、安曇野市全体の有収率で78.4%という数値は若干悪い。

会 長

有収率は年々下がってきているということか。

事務局

正確にはどういう理由かとは言えないが、例えば下水道工事を冬期間に実施して、水道水を凍結防止の為に、少しずつ流すとか今回の松本地域の震災で水道水が濁ったため、PCタンクの水を一回抜いて入れ直したというものもあり、有収率は前後する。

会 長

漏水調査は実施しているのか。

事務局

特に、漏水調査は実施していない。先ほどの穂高と明科地域の有収率が低いというのは、穂高地域は下水道工事を実施している最中で、それに伴う布設替を実施している。それが完了すると有収率は上がると思われる。明科地域の場合は、山の中に配水管や送水管が入っており、実際に水道管の位置が確定できない部分もあるので、漏水調査を実施するにも難しい部分がある。仮に水が噴き出している、それが水道水なのか湧水なのか、区別ができない、布設替でしか対応が取れない部分もあり、漏水調査はしていない。

会 長

他に質問等ありますか。

委 員

水道料金に関する事務を民間委託したことにより、どのくらいの効果があったのか。

事務局

民間委託は、3年がかりで事務を進めてきた。民間委託を実施する前は各支所に上下水道の職員を配置して料金関係の対応をしてきたが、この支所の職員を引き上げて本庁に一元化した。現在でも支所へ出向いていても会計窓口で上下水道料金の支払いはできるが、それらを担当する専門の職員をなくした。職員の人数は、2年の間に上下水道の職員16人と臨時職員が5人、料金収納専門の臨時職員1人で計22人の職員が減った。経費的には、平成22年10月1日から民間委託の実施のため、上水と下水で合わせて四千八百万円くらいの減。平成23年度の見込は約九千万円の経費が削減される予定。九千万円の内、六千万円が水道事業会計の中で削減され、下水道会計の中で三千万円削減される。

委 員

民間委託となって、住民サービスの向上はどうか。

事務局

水道の閉栓開栓時には、お客様には各支所に出向いて、申請書を書いていただき、なおかつ五百円の手数料をいただいて対応していたが、これをすべて廃止して、水道料金センターへの電話による閉栓開栓の申し込みを可能とし、手数料の五百円も廃止した。また、水道料金センターは午後7時まで営業し土曜日午後7時まで営業している。

会長

それでは、議事②番のその他をお願いします。

事務局

上水道課の平成23年度の主だった事業ですが、三郷地域はどのように水源転換をしていくのか、今年度に決定をして、平成25年度の工事着手に向けて進めていきたい。これに伴い、旧5町村の事業を統合する中で、やはり三郷の水源の方向性が決まらないと事業を統合することはできないので、なるべく早い時期に方向性を決めて事業統合を図っていきたい。それから豊科地域の工事については、耐震診断を実施してあるので、診断に基づいて各施設の補強工事の着手をしていきたい。他の地域についても来年度以降、計画的に耐震診断に基づいて補強工事をしていく。平成23年度に穂高東の低区配水池に緊急遮断弁を設置して、堀金の低区配水池にも設置し、また明科の川西配水池に平成24年度に補助金を受けて設置する予定。これで、安曇野市の水道施設の拠点について、緊急遮断弁が設置されるという状況。また布設替については、豊科地域には鉛の給水管があるため、取り替え工事を実施している。これについては、5カ年計画で実施してきたが、前倒して、平成23年度で完了する予定。穂高地域については、下水道設置工事が残っており、下水道配管に伴う水道管の布設替がある、また明科地域については、一部老朽管の布設替計画がある。

それから、6月30日に松本市で震度5強の地震が発生し、豊科地域で水道水の濁りが発生した。3月11日の震災の時も豊科地域の一部で濁りが発生したが、これは深井戸が地震によって揺すられた影響と地盤、断層が揺すられた状況に伴い、濁りが発生した。この濁りが2回とも、豊科地域だけに発生した原因は、主な井戸が豊科地域の真々部に集中しており、地質や成分により、白く濁ったものは鉱物でミネラルの塊など井戸の中にあっただものが揺すられて白く濁ったものと思われる。二日間に渡り濁り、配水池タンクの水を抜き、新しく水を入れ替え、水道本管部分は消火栓から水道水を放水して水を入れ替えて対応した。今後は豊科地域の水道水を三郷地域に送水するという計画もあるが、これから井戸本体の中の調査や濁りの調査を実施する予定。今後の対応方法としては仮に濁った時は浄化して水道水として流すとか濁った時は井戸の取水を止めてしまうなどの機能を付けることが可能なので、検討していきたい。

会長

他に何かありますか。

事務局

水道基本料金については、去年の秋に市内統一を実施した。三郷地域が値上がりをして、穂高・明科地域は値下がりとなったが、特に問い合わせ等はなかった。料金も計算どおりで、前年総額とほとんど変わりなく収入になっている。若干猛暑による影響で使用水量が上がって水道料金は伸びている。

会長挨拶の後、閉会。

会議終了 午後3時45分